

【時事評論】

台湾総統選挙は民進党の頼清徳氏が勝利し 民進党政権が継続へ

石原忠浩

(本誌編集長)

2024年1月13日に投開票が行われた台湾の総統選挙は民進党の頼清徳現副総統が、国民党の侯友宜新北市長、民衆党の柯文哲前台北市長に競り勝った。1996年以降、台湾の総統が直接民主選挙で選出されるようになってから、陳水扁政権（2000–2008）、馬英九政権（2008–2016）、蔡英文政権（2016–2024）と8年周期で政権交代が実現していたが、今回の頼氏の勝利により、民進党は8年で政権交代が起こるジンクスを打破し、民進党が5月以降も3期連続で執政を担うことになる。頼次期総統は5月20日に就任する。

表1 台湾総統選挙の結果

候補と政党	得票数	得票率
頼清徳（民進党）	5,586,019	40.05%
侯友宜（国民党）	4,671,021	33.49%
柯文哲（民衆党）	3,690,466	26.46%

出所：中央選挙委員会「2024—第16任總統副總統選舉」、<https://db.cec.gov.tw/ElecTable/Election/ElecTickets?dataType=tickets&typeId=ELC&subjectId=P0&legislId=00&themeId=4d83db17c1707e3defae5dc4d4e9c800&dataLevel=N&prvCode=00&cityCode=000&areaCode=00&deptCode=000&liCode=0000>。